



FANBOXまとめvol.5

「さあ、お兄サン♡」

週に一度のオチ○チンチエツクの

時間デスよ♡」

ニッコ♡

ニッコ♡



「マニの一週間、オチ○チンは
何回洗いマシタか？」

「全然？一度も？」

「フフ♥いつも通りデスね♥」



「では、この可愛らしい皮かむりの

オチ○チンを剥いて中を見ちやいマスね♡」



「♡の☆」

「えいっ♡」



「わあ…♡」

「これは強烈デスね…♡」

「恥垢がこんなだ…」

「ニオイもすごいデス…♡」



おおっ〜…

「フフ♥お兄サンのオチンチン

今回もお掃除のしがいがありますね♥」

「腕が鳴ってしまいマス♥」

「…♥」



「それじゃあ早速、この洗剤液で

濡れ濡れになった綿棒を使って」

スミ...

「お掃除していきマスね♡」



「ちよつと冷たいかもしれませんが、
我慢デスよ〜♡」



エロ

ん

「はーい…いらい子いらい子…」

ぷっつと…ぐぐぐぐぐだサイねえ…」

「んー…恥垢が取れたら…」

シワの所も念入り…マ…マ…マ…

くちゆくちゆく…」



ぐぐぐ

ちゅ

ぐぐぐ

ちゅ

ちゅ

ぬちゅ

「フフフ♥キレイになつてキマシタ♥」

「お兄サン、動かずにちやんと

我慢できてえらいデスね♥」



クワ

クワ

クワ

クワ

「さあ、最後は裏筋デス♡

ママは特に念入りにお掃除シマスね♡」



くちゅ♡

ゴクゴク

ん

「我慢デスよお兄サン、

じつとしててくださいね〜」

「もう少しで終わりますよ〜

がんばれ〜がんばれ〜♥」



クワッ

クワッ

クワッ

「はい♡終わりました♡
お疲れ様ですお兄サン♡」

「オチ○チンとってもキレイに

♡
♡
♡

なりましたよ♡」



「フフ♥オチ○チンがちがちデスね♥
おバク固いのです♥」

「お掃除の間、我慢するの
とてもつらかったと思ひマス♥」



「がんばったオチ○チンには…」

「マニ褒美をあげないとイケマセンね♡」



「えいっ♡」



♡

m

^

m

「ほーら♡お兄サンの大好きな
プロプロタイムデスよ♡」

「今度は我慢シナイで好きなだけ

気持ち良くなつてウダサイ♡」



「アレ？もしかしてもう
イッチヤいそうデスか？」



「アー、そんなに我慢してたんデスね」

「いいデスよ♡じやあいつぱい
ぷろぷろシマスね♡」

「気にせず出してクダサイ♡

「♡ヨシヨシ♡ぷっぴゅぷっぴゅ♡



「♡♡♡」

（ワオ…すまの勢い♡

もう口の中がいっぱいデスね♡）



びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

かほ♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

（ラフフ♥まだ出てマス♥

お兄サンとつても気持ち良さそうなの

顔をしてマスね♥）

（最後までしっっかりと出し切って

いただきマジョウウ♥）



（……………終わったみたいデスね♡
お疲れ様デスお兄サン♡）



「ほら、見えますか？」

お口の中がお兄サンの精子で

いっぱいなんです♡」



「気持ち良かった証拠デスね♡

嬉しいデス♡」

「♡はす♡」



「はい♡これでお口の中も

オチ○チンもキレイキレイに

なりマシタ♡」

んあっ♡



「それじゃあお兄サン♡」

また一週間後にチエツクシマスね♡」

「楽しんでる♡」

ニヤ



おわり

















































んんん♡

んん♡

んま…



























































「はあ…はあ…♡」

「こ、これで最後…♡」

これで最後にしないと…♡」

「もうすぐあの子が
帰ってきちゃう…♡」

「あの子に見つかったら…」

また…あっ…♡」



「だ、だめ…♥あの子のこと
考えながらシコシコしちゃ…♥」

「母親なのに…♥

娘をオカズにするなんて…♥」

「早く…早く出して

スッキリしないと…♥」

「ただいまーっ♪」





「あーっ！」

ママってば

おなにーしてるーっ！」

「あっ！」

「ミ、ミカちゃんっ！」

「ち、ちがうの…これは…っ！」

ミカ

「もう〜だめでしょ
ママ〜」

「えっちするときは
ミカちゃんのおま〇こ
つかってっでいってるのじ〜」

「ミ、ミカちゃん…」

「だめよ…だめなの…」

「親子でそんなことしちや…」



「だ〜め♡」

「ママのおち○ちん
ミカちゃんのおま○こに
いれちゃいま〜す♡」

「ああ…だめえ…
ゆるしてえ…」



「は〜い♥

はいっちやいました〜♥」

「あ〜♥いやあ〜♥」

（入っっちゃったあ♥

娘ま〇ここにおち〇ちん

飲まれちゃったあ♥）

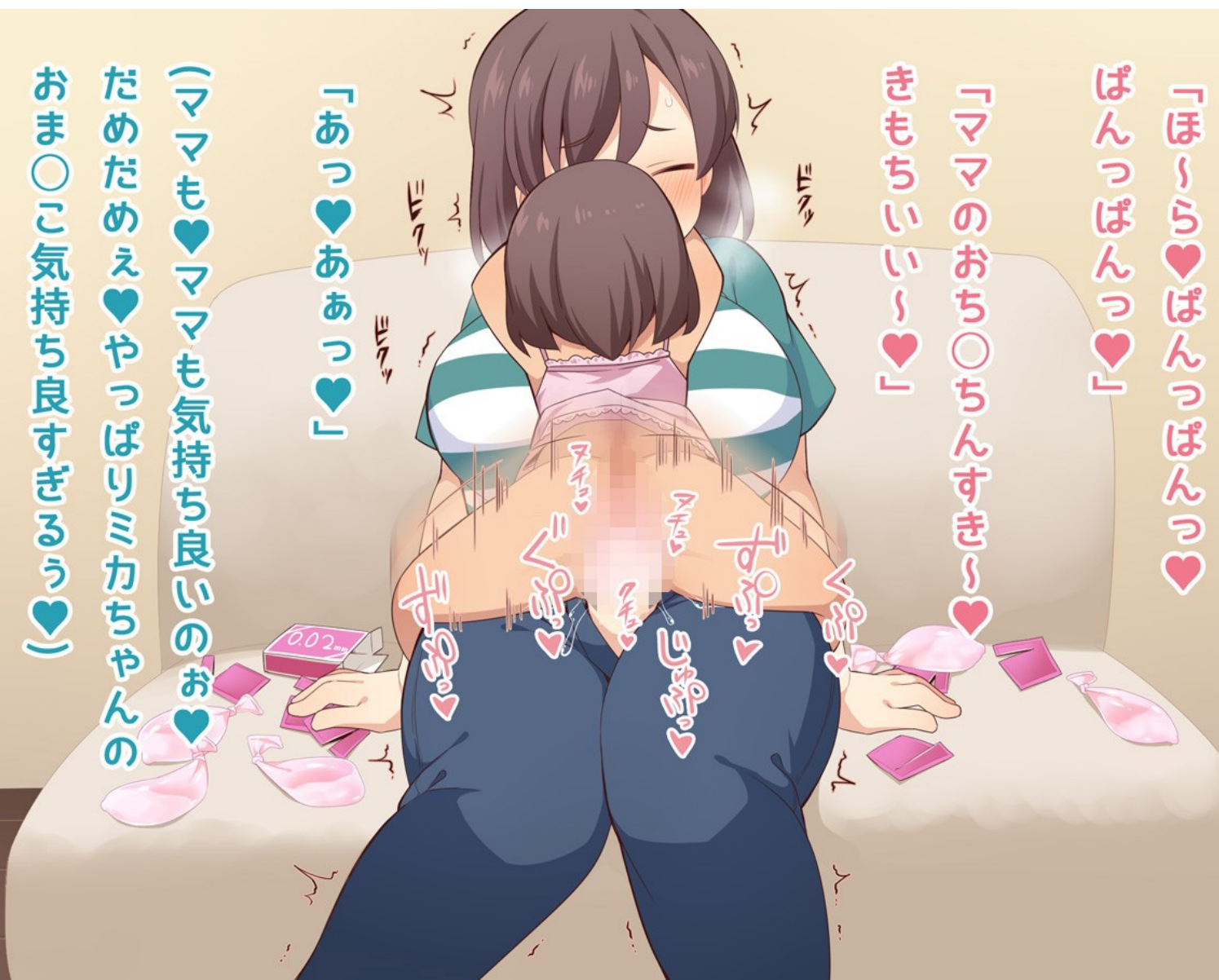


「ほくら♡ぱんっぱんっ
ぱんっぱんっ♡」

「ママのおち○ちんすき〜♡
きもちいい♡」

「あっ♡ああっ♡」

（ママも♡ママも気持ち良いの♡お
だめだめえ♡やっぱリミカちゃんの
おま○こ気持ち良すぎるう♡）



(こんな小さい体なのに
ママのおち○ちん簡単に
飲み込めちゃうし♡)

(腰使いもどんどん上手くなるし♡)

(なによりおち○ちんの最高に
気持ち良い所を的確に刺激してくる♡)

(なんでこんなに可愛くてエッチで
相性抜群なのお♡)



（あっ♥やばっ♥

精液のぼってきた♥

娘ま〇こで射精しちゃう♥

搾り取られちゃう♥）

「ミ、ミカちゃ…もう…おっ…♥」

「んっ♥いいよ♥イツて♥

ミカもイクから♥一緒に♥」



「おっ♡

イグっ♡

「んっ♡」

んっ♡

んっ♡

んっ♡

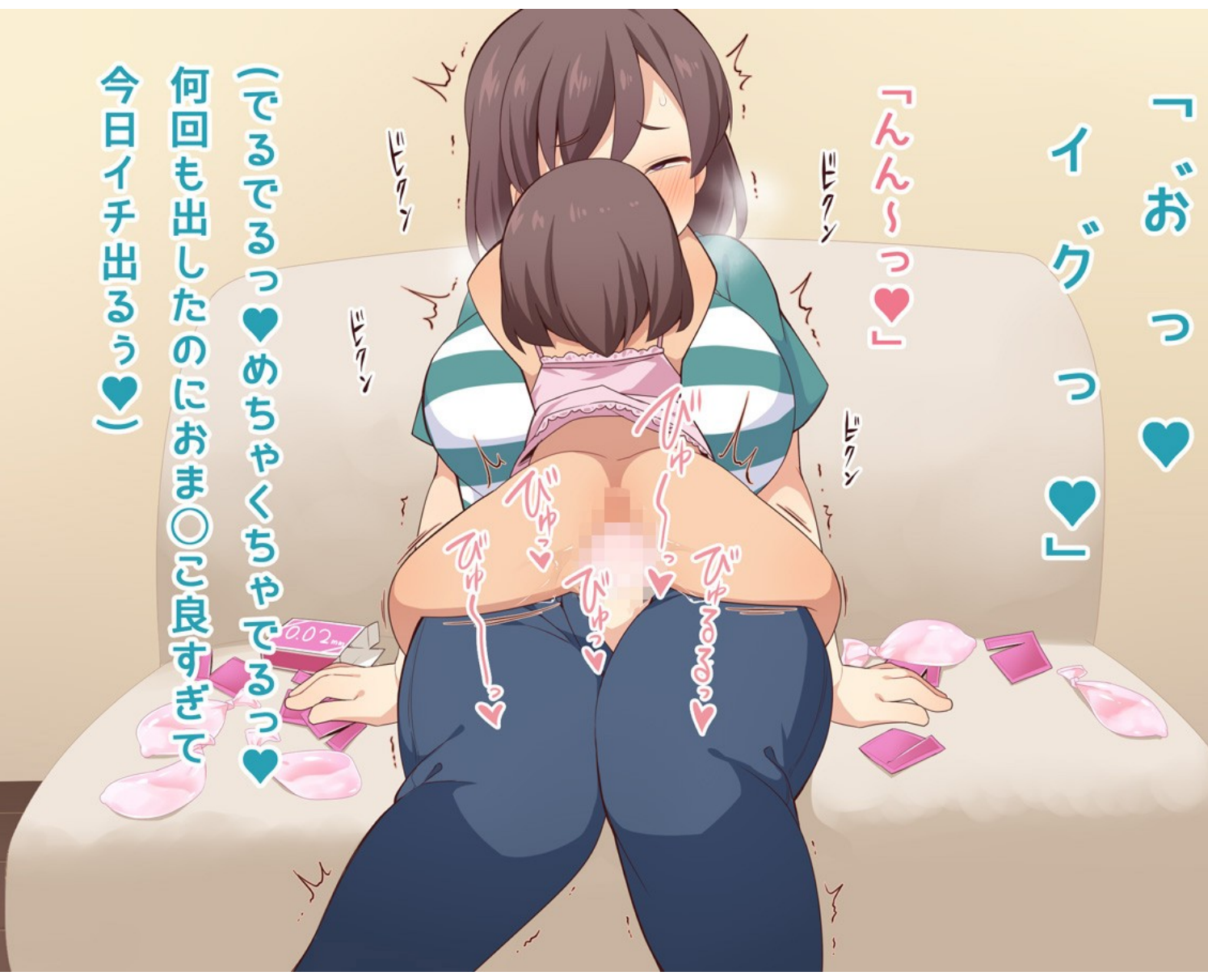
んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

(でるでるっ♡めちやくちやでるっ♡)
何回も出したのにおま○こ良すぎて
今日イチ出るっ♡)



「はあ…はあ…♥」

「んふふ♥」

いっばいおしやせいできたね

マ〜マ♥



「んっ♡」

「おうんっ♡」



（へ、部屋汚さないように
ゴムしててよかったあ〜…
こんなの中に出してたら
絶対孕ませちゃう…♡）

「えへへ〜♥

ママのおち○ちんとっても
きもちよかった〜♥」

「ママは〜?」

「え…?」

え、ええっと…」



(どうしよう…正直めちやくちや
気持ち良かったけど…)

(母親としてこんなことは
もうやめにしないといけないし…)

(でもこんなに相性抜群のおま○こを
積極的に使わせてくれるミカちゃん
可愛くてエッチで大好きだし…)

(ああ〜もう〜っ)



「マ、ママも…」

気持ち良かったわ…」

「えへへ〜♡」

（うう…次こそはやめにしないと…）

burn



おわり

























002

































その昔、家を踏み潰せるほどの巨大な鬼娘が
酒や食料を強奪するために暴れまわっては
村人たちを苦しめていた。
それを見かねたある剣豪がこれを退治し、
近くの洞窟に封印したのだった。



当然、恐ろしい鬼のいる洞窟など
誰も近寄ろうとはしなかった。
しかし村の童たちだけは違ったのだった。



(また来たのか……この童は……
まったく……最初こそ怯えとったが……
儂が動けず声も出せぬと知ってからはこの有り様じゃ……
よう飽きもせずチ○ポを乳に押し付けに来よる……)



(む…連れもおったか…こやつもまったく…
出もせん乳を吸つて何が面白いのやら…)



(ふん…果ておつたか…)

(毎度こうして乳を相手に子種を吐き出しおる…
何になるのやら…よう分からんやつらじゃ…)



(いつもの事だ...)

(そうして事が済むとすぐいなくなる...
だが...どうせすぐ別の子どもが来るだろう...)





(ほれみたことか…)

(こいつらも僕の乳が目当てじゃ…)

ただ…さつきのやつらと違ってやたらと

チ○ポをどこかに挟みたがる…

そうしてしばらく腰を動かしたあと…)



(果てる…)

(まったく…情けない声をあげて
精を吐き出しておるわ…)

(ここに来る童たちは皆、乳を好いとる…
いや…皆ではないか…)



(こやつなんかは…儂の腹にチ○ポを
押し付けてきよる…
腹肉がどうだの腹筋がどうだの言いながら必死に
擦りつけてくるんじゃ…)



(そうやって腹を相手に
交尾の真似事をしながら果ておる……
まつこと……よう分からんのう……)



(ふん……どいつもこいつも……
子種だけは立派に濃ゆいのを出しおつて……)



スウ……

(しかしまあ……)

あやつらが来るようになってほんの少しだが

退屈が紛れるようになった……それは悪く思わん……)

(ただ……)





(村の連中にバレても知らんぞ…まったく…)

(後始末くらいしていかながバカタレ共が…)

終

























































「ほらほらお兄ちゃん♡

おっぱいだよ♡おっぱい♡」

「お兄ちゃんおっぱい好きでしょ♡

特にパイズリなんか大好きだよねえ♡」

おっぱい♡

「そのパ・イ・ズ・リ♡を

今からしてあげるからさ

ちよつとお金くんない？」

「実は欲しいモノあるんだけど

お小遣い足りなくてえ」



「ねえねえおねがらしい♡
ほら♡なまちちだよお♡」



AP3♡

おねが

おねが

「また大きくなっただよお♡

どんだんお兄ちゃん好みのデカパイに

育つてるの♡」

ニヤ

「このおつきいおっぱいでおち○ちん

挟んでえ♡いっぱいシコシコして

気持ち良くしてあげるからあ♡ね？」



「あはっ♡勃起してきた♡
パイズリされてるとこ想像して
興奮しちゃった?」

「やる気まんまんごじゃっ♡♡」

あゝん
あゝん



「これってオツケーってマコだよね♡
交渉成立しちゃったよね♡」

「じゃあ早速おち○ちん出しちゃおうと♡♡」



「わっ♡すっ♡い♡」

「ばっ♡きばっ♡」

「もうフル勃起じゃん♡」



「じやあぢやあ♡今からおち○ちん

挟んぢやうけどいいよね♡いいでしょ♡

パイズリしちやうね♡」

ニヤ♡



「え〜？ちよつと待ってって何〜？

おち○ちんこんなことになってるのに
いませらやめちやつつの？」

「そりやお兄ちゃんが本気でやめたいなら

私も無理にとは言わないしあきらめるけどお…」



「あはっ♡やっぱしてほしい？そうだよねえ♡
おっぱいもパイズリも大好きなお兄ちゃんが
やめたいわけがないよねえ♡」

「わかってたよお♡妹だもん♡」



「ほあ〜い♡それじゃあ
おち○ちん挟みまあ〜す♡」

お
ちん
♡

おちん

おちん

「ふふふん♡どおどお？」

気持ち良い？気持ちいいよねえ♡

大好きなパイズリだもんねえ♡」

「おち○ちんが喜んで

ビクビクっしてしてるのおっぱい越しに

伝わってきてるよお♡」

たほ♡♡♡

たほ♡♡♡

たほ♡♡♡

たほ♡♡♡

ブル

ブル



「あゝあゝ♡

だらしない顔しちゃつて♡

でもすっぴん♡に幸せそっぴん♡」♡

「…あれあれえ？

もしかしてお兄ちゃん

もうイキそうになつてる？」



「せつかくお金払うのにそんなすぐ

イツちやつたらもつたいたいよいよあ？

もうちよつと楽しも？」

「なあに？気持ち良すぎて

我慢むり？ふうん♡そつか♡」



おっぱい♡

おっぱい♡

「じゃあまったりパイズリはやめて

本気ズリで即イキさせてあげる♡」

ズリ♡

ズリ♡

ズリ♡

ズリ♡

ズリ♡

ズリ♡

「めちやくちや気持ち良い射精

させてあげるからね♡」

ズリ♡

ズリ♡



「ほーら腰が浮いてきた♡

精液のほっつてきてるんだねえ♡

いいよお♡そのまま出して♡

「おっぱいの中で好きなだけ

出していいんだよお♡ほらほら♡

ほーら♡♡出しちゃえ♡♡



「あはっ♡出た♡た♡た♡た♡た♡た♡た♡すっ♡すっ♡すっ♡」



「ほーに♡おち♡おち♡
びゅるびゅる♡」

「♡おち♡おち♡
びゅるびゅる♡」



びゅる

びゅる

びゅる

「最後までしっかり出し切ろうねえ♡
ほらぴゅっぴゅっぴゅっ♡」



「すげーい♡めっっちゃ大量♡
精液つてこんなに出るもんなんだねえ♡」



「ほらわかる？おっぱいの中ぐつちよぐちよ♡
孕ませる気まんまんのガチ種付けされちやうた♡」



「ほんとにお兄ちゃんっておっぱい好きなんだねえ♡」

「じゃあパイズリしてあげたから

あとでお金ちょうだいね♡」

「約束は守ってよ？」

よろしくねお兄ちゃん♡」

おわり



お尻ん♡





















おっぱい

FxxN♡































































